

# 量的拡大に回帰する中小企業貸出

二、三年前の金融界あげての“金利適正化運動”は、資金需要の沈滞と銀行の融資競争の激化のなかで後背に退いてしまったようだ。中小企業貸出は、三井住友が先行しUFJと東京三菱が追走、さらにここへきてみずほ銀行が“中小企業専門銀行”としての陣容を整えて本格稼働しつつある。地銀も

地域での取引深耕に集中する。各行とも量の拡大による収益強化を目指す。その根底には積極的なリスクテイクを可能にするマネジメント能力の向上と多様な商品開発力、さらには専門的人材の配置など長期的視点に立った施策の積み重ねがみえる。

## みずほ銀行の中小企業戦略の新展開

### ミドルリスク層へ

### 商品・取引方針・審査工程・専任投入の四本柱

みずほ銀行は今年度、中堅・中小企業貸出分野において大きな戦略転換をした。ミドルリスク層に対しては積極的にリスクをとりに行く態勢を整備し、小規模企業にはローコスト運営で幅広い取引先の獲得を狙う。そして上位企業層には従来から同行が強みとするソリューションビジネスの一層の強化・推進を図る。同行は、昨春秋には各取引先層ごとにセグメントした施策を相次いで打ち出し、今年度下期からその推進を本格化させている。

(編集部)

### ミドルリスク層への

### 戦略を転換

当行は今年度、法人部門戦略のフェーズ転換を打ち出した。その背景としては、当行は〇三年度までは〇二年度四月のシステ

△障害の影響と、不良債権問題を中心とする財務面での課題があり、こうした諸課題の一扫に全力で取り組んだ。だが、〇三年初めの一兆円を超える増資が一つのターニングポイントになった。グループ全体で一兆円を

超える不良債権の処理をし、当行の不良債権問題も〇三年度中にはほぼ峠を越した。これに伴い、リスクを積極的にとる態勢が整った。〇四年度の上期に具体的な施策を検討し昨春秋に公表した。われわれは

この間の遅れは、一年程度で十分キャッチアップできると考えている。システム統合が昨年一月で完了し、今年から本格的に施策を実行していく。昨年までが巡航速度とすれば、今年からは一気にトップスピードにも

みずほ銀行 常務執行役員

西田 宜正

